

## ポローニャのポルティコ 世界遺産

ポローニャのポルティコは、2021年7月28日にユネスコの世界遺産リストに登録されました。これは、ポローニャ市内に位置し、十二世紀から現在までに建設された12グループのポルティコ（アーケード風の柱廊）とその周囲の市街地を含む、一連の歴史的建築群です。公共使用のための私有地として定義されたこれらのポルティコ全体が、ポローニャの都市アイデンティティを表現し重要な構成要素となっています。

### ユネスコ

歴史的都市に浸透し現代都市に重要な存在感を放つポルティコシステムという背景のもとで選ばれたポローニャの一連のポルティコは、古代起源で広く普及していた建築タイプを模範的に表現しています。そしてそれは、今日まで決して放棄されることがなかっただけでなく、都市の発展の歴史的段階を通じて常に進化しているのです。一連のポルティコは、十二世紀から現代にいたるまでの、庶民向けの住宅と貴族の邸宅、公共施設と宗教施設の間で広く普及しているポルティコ建築の様々なタイプを、多様な建築年代、様式、用途について、模範的に表現しています。都市が時間の経過とともに拡大し変化していく結果として、今日でも存在する幅広い建築素材とスタイルが使われています。

ユネスコは国際連合教育科学文化機関の略称です。ユネスコは、政治的及び経済的合意だけでは持続的な平和を構築するのに十分ではなく、教育、科学、文化、国家間の協力に基礎を置かなければならないという認識のもと、1946年11月4日にパリに設立された国連の特別機関です。ユネスコの目的は、人種、性別、言語、宗教の区別なく、国連憲章がすべての人々に認めている正義、法律、人権、基本的自由の普遍的な尊重を確保することです。

以下の目的を達成するために、ユネスコは、異文化間の対話、環境の尊重、持続可能な開発の優れた実践を促進することにより、国際平和と人々の繁栄を保証する条件を築き上げることに尽力しています：

- 基本的人権として、また人格形成の必須要件として、全ての幼児、少年少女が質の高い教育を受けられるように教育を促進する；
- 人類の世界遺産に登録された卓越した価値と美しさをもつ遺跡の保護と保全を通じて、異文化理解を構築する；
- 環境災害の監視と防止、地球の水資源の管理のため、国家と社会の連携を強化するための科学協力を追求する；
- 民主主義、発展、人間の尊厳の保護を保障するための必須条件として表現の自由を保護する。

現在、ユネスコは持続可能な開発の価値観に従って、気候変動による悪影響を防ぐため、異文化間の対話、新しい情報通信技術への普遍的なアクセス、科学的知識の普及を促進することを目的としたプログラムを通じて、社会、環境、経済問題に対処できる総合的な政策の策定に取り組んでいます。

詳細については <http://en.unesco.org/about-us/introducing-unesco>

### 世界遺産

1972年11月16日、世界遺産条約、すなわち文化遺産および自然遺産の保護に関する条約がパリで批准されました。同条約は、自然保護と文化遺産の保存の概念をまとめ、それらを地球全体の社会の発展と平和と連帯の維持に必要なかつ基本的な要素として認識する最初の公式の国際文書です。

この条約の本質的な目的は、世界遺産を保護し、それを将来の世代に継承できるようにすることです。この条約では、世界遺産リストに登録できる自然遺産または文化遺産のタイ

プと、締約国と呼ばれるこの条約に署名した国が果たすべき遺産候補の特定、及び遺産自体の保護と保護における役割についての義務が定められています。

世界遺産リストは、世界遺産委員会が顕著な普遍的価値 (OUV) を公式に認めた資産のリストであり、その損失は全人類にとって回復不可能な損害を意味します。遺産の確実な保存のためには文化遺産と自然遺産に対する人々の敬意と愛着を強化することが必要不可欠なので、この条約は教育と情報に関して特に注意を払っています

承認を得るには、条約の各加盟国がその遺産の立候補を提案し、文書や調査に基づいて議論し、ユネスコの全ての選定基準に基づいてその例外的な普遍的価値を示す文書を作成する必要があります。世界遺産センターは立候補申請書類が完全であるかどうかをチェックし、完全である場合はその申請書類を審査するために年に一度開催される世界遺産センターに提出します。その後、委員会総会は、その遺産を世界遺産リストに登録するかどうかを決定します。

<https://whc.unesco.org/en/convention>

世界文化遺産と世界自然遺産の決定、保護、保存、そして将来の世代への伝達は、ユネスコの主要な使命の一つです。

その遺産は、私たちが今日恩恵を受け、将来の世代に引き継ぐ過去の遺産を意味します。私たちの文化遺産、自然遺産は、生命とインスピレーションのかけがえのない源です。東アフリカのセレンゲティ国立公園の広大な自然、エジプトのピラミッド、オーストラリアのグレートバリアリーフ、ラテンアメリカのバロック様式の大聖堂など、独特で多様な場所が世界遺産を構成しています。

## ユネスコ世界遺産

現在までに、1157 件が世界遺産リストに登録されており、そのうち 900 件が文化遺産、218 件が自然遺産、39 件が複合遺産であり、世界 167 か国に存在しています。それらを見たり知識を深めるには、サイト <https://whc.unesco.org/en/list/> の地図の利用がおすすめです

## イタリア国内のユネスコ遺産

イタリアは世界遺産リストに最も多く登録されている国であり、58 件が登録されています。ユネスコのイタリア国内委員会は、イタリアにおけるユネスコプログラムのプロモーション、連携、情報、協議、実施を促進することを目的としています。同委員会のウェブサイトでは、我が国のユネスコ遺産に関する情報を見つけることができます：

<https://www.unesco.it/it>

## ボローニャにあるユネスコ遺産

ボローニャ市は、2021 年 7 月 28 日に世界遺産リストに登録された世界遺産「ボローニャのポルティコ」に関するユネスコの連絡窓口です。同市内にはポルティコ世界遺産事務所が設立されました。その事務所は、管理計画の実施と実行を監督し、制御室の作業を調整およびサポートし、遺産の保存状況を監視し、文化省と協力し、ユネスコ世界遺産間の国内および国際協力活動に参加し、ポルティコに関する調査と研究を促進および調整し、提案の準備及び作成を行い、遺産の構成要素に関係する修復および有効利用を実施および監視します。

## ボローニャのポルティコの12の構成資産

### 1. サンタ・カテリーナとサラゴツツァ

ジェントリフィケーション現象の影響を受けず「庶民」と職人を維持してきた社会的背景に基づき、これらのポルティコは、元来のタイプおよび構造モデルを維持している一連の小規模な住居用建物（小さな家庭用スペースからなる庶民向け住宅）に属しています。

サンタ・カテリーナのアーチ型のポルティコは、中世のヨーロッパで最も活気のある都市のひとつに建てられた修道院の敷地の最古の区画のひとつを示す、稀少かつ貴重な証拠です。

19世紀と20世紀にこの地区が取り壊し作業にあっても生き残ったこれらの脆弱な建造物は、1970年のボローニャ市歴史地区の有名な保存計画のおかげでいねいに修復されました。それ以来、これらの建築物は、歴史的な住居遺産保護のモデルとして国際的レベルで認められています。

この建造物群には、中世の市街の建築の原形を感じ取ることが出来ます。中世以来、ポルティコとその背後の敷地は、庶民の住居としての機能を保ってきました。ゴシック時代に特徴的な狭小構造は、上層階の容積を増やすために通りに向かって広がっています。ポルティコは、通りと1階の店舗の間にある一種のフィルターの役割を果たす空間であり、中庭と密接な関係にあり、その関係は今日でもはっきりと見ることができます。

### 2. サント・ステファノとメルカンツィア

この建造物群には、サントステファノ大聖堂とその周囲の建築構造全体が含まれており、建物の元老院住居機能とポルティコの向こうにある広場の公共機能との関係を強調しています。14世紀に建てられたメルカンツィア宮殿もこの建造物群に含まれており、その記念碑的なロτζィアには、格別な建築的価値を持つポルティコを見ることが出来ます。

この建造物群に含まれる中世後期およびルネサンスの建物の柱廊玄関は、全体的デザインとそれらを構成する個々の昔ながらの建築要素（柱、土台、柱頭、丸天井など）の両方において、非常に洗練された建築文化を表現しています。この建造物群の特徴である住宅、商業、宗教の各機能は800年以上変わっていません。特に、メルカンツィア宮殿は今でもボローニャ商工業手工業農業会議所の本拠地となっています。

### 3. ガッリエーラ

この建造物群には、かつてローマ時代の都市ボノニアのカルド・マクシムスであったガッリエーラ経由、マンゾーニ経由、サン・コロンバーノ全体に隣接する重要な元老院宮殿とそのポルティコが含まれており、その歴史は7世紀にまで遡り、現在はゲヌス・ボノニア博物館の一部となっています。

15世紀と16世紀の柱廊玄関は、市内のこの地域にのみ存在する建築の類型を示しています。ダル・モンテ宮殿における古典的様式の特別な使用や、ボナゾーニ宮殿における雄牛の使用によるエンタシス柱の強化などがその例です。

これらの特徴は、ポルティコを都市景観の強力な表現要素とし、アンシャンレジーム時代にこの都市を統治していた寡頭政治のための特定のタイプの居住環境を創出したいというボローニャ元老院議員家族の願望を明らかにしています。この地区において、住居用建築物のポルティコは、多様な都市社会性にとって心地よいものであり、時代を経て家族の威信と豪華さを表現する機能を持ってきました。

### 4. バラッカーノ

この建造物群には、16世紀から17世紀にかけて建てられた様々な高さで交差する一連のポルティコが含まれています。これらのポルティコは一連の屋根付きの小道を作り出すだけでなく、複数の視点と高度な景観の望遠鏡パノラマを特徴とする都市環境を意図的に作り出すことも目的としていました。この地区の第一の社会的役割は公共の福祉でした。これらの同じ建物の現代的な「市民センター」機能も同様にインクルーシブであり、市民



参加に対して開放的です。その後、アンシャン・レジーム時代に多くの旅行者によって注目され、研究されました。サンタ・マリア・デル・バラッカーノの聖域は、いわゆる「ポルトーネ デル バラッカーノ」によってサント・ステファノ通りのポルティコとつながっています。この大きなヴォールトは、貧しい孤児の少女たちを迎えた建物のポルティコと、聖域のファサードに面したポルティコとの間に視覚的かつ空間的なつながりを生み出すために建てられました。

## 5.パヴァリオーネ、バンキとマッジョーレ広場

この建造物群には、全ヨーロッパで最も重要かつ最もよく保存されている中世起源の公共空間の1つが含まれています。その公共空間はその後ルネサンス期に政治フォーラムに形を変えました。この公共空間はマッジョーレ広場、エンツォ広場、ネットゥーノ広場から構成されています。ネットゥーノ広場にはジャンボローニャ作の記念碑的な噴水があります（16世紀）。

ボローニャの全ての主要な公共建築物（プラテア・コミュニスの中世の改修から始まる）を共通の形式言語を通じて統合する、並外れた建築的価値を持つ長いポルティコ構造物は、記念碑的なコースを描いています。その建築的特徴は歴史的都市に力強く現れています。ここで特に重要なのが、ボローニャで最も長く途切れることのないポルティコであるパヴァリオーネ、元々はボローニャ大学の本拠地であったアルキジンナジオのポルティコ、および周囲の建造物のポルティコです。それらの周囲建造物は、ポルティコに調和してつながるように建造されています。

過去との継続性は機能的にも今なお保たれており、何世紀にもわたって基本的には変わっていません。

## 6.サン・ルカ

サン・ルカのポルティコは、バロック時代にイタリアに建てられた信仰の「屋根付き通り」の素晴らしい例です。この建造物群は市内から始まり、巡礼ルートの終点であるサン・ルカの聖母の聖域で終わります。ロザリオの奥義を捧げる礼拝堂が点在する上り坂のポルティコの道で、城壁と郊外の教会を結んでいます。

18世紀前半に完成したこのポルティコは、これまでに建設された中で最も長いポルティコであり、3世紀以上にわたって市民社会のおよび宗教的機能を継続的に果たしてきました。また最近では、直線性が特徴のこのポルティコは、悪天候でもトレーニングやウォーキングができることを高く評価され、ジョギングやウォーキングをする人によく使われます。

## 7.大学とアカデミー

この建造物群には、ポッジ宮殿、美術アカデミー、ボローニャ国立美術館（旧イエズス会修道院および18世紀のサン・イグナツィオ教会）などの重要なポルティコノ学術建造物が含まれていて、200年以上にわたって市内の学生生活の中心として機能してきた通りの歴史的価値を強調しています。

ボローニャの近代都市キャンパスインフラ・ムロスの歴史はナポレオン時代に遡り、その中核はこの建造物群の周囲にあたります。内部にはポルティコがある主要な学術棟があります。ボローニャ大学の建築物の重要な特徴であるポルティコのデザインは十六世紀半ばにまで遡ります。当時は中世の先例を古典風に作り直し、古典的なモデルを再現したものと考えられていました。

今日の大学「都市」はこの計画モデルを支持し、都市の区域全体に広がる象徴的価値の最も強力な担い手としてポルティコを見なしています。知識を世界中に普及させることに関する大学の重要性の故に、国際レベルでのポルティコモデルの柱廊モデルの伝播に強い推進力が加わります。

## 8.チェルトーザ

サン・ルカのポルティコからチェルトーザ墓地に向かって伸びる長く真っ直ぐなポルティコは、現代の墓のポルティコのユニークな例です。ナポレオンのサンクルー勅令の後、古代ローマの埋葬道路をモデルにして設計されましたが、ボローニャ特有の「屋根付き街路」が追加されています。

この建造物群には、長く複雑な歴史と芸術的遺産で国際的に非常に重要な記念碑である、チェルトーザの歴史区域が含まれています。ポルティコ内部の回廊はルネッサンス時代に遡り、ナポレオン時代以降、現代のボローニャの墓地遺跡にふさわしいものとして認識されました。

## 9.カヴール、ファリーニとミンゲッティ

この建造物群には、カヴール広場とミンゲッティ広場の周囲にある重要なポルティコのある建物が含まれています。イタリア統一後も、ボローニャは中世の自治体の建築原則と規則に従って設計された公共建物と私有建物の両方にポルティコを作り続けました。19世紀に歴史都市の再開発が行われた他のどのエリアよりも、この地域は統一的な建築モデルに基づいてポルティコの再解釈を実現しています。それにより、歴史的な伝統とのつながりを失うことなく、社会のニーズやより現代的なライフスタイルに適応することができました。

特に、ファリーニ通りの現代的中心道路に沿って建設された一流の金融および商業施設のエリアは、明確な歴史主義的な意味合いを持つ建築上の結びつきを実現しました。このポルティコは、周囲のポルティコとは非常に異なるブルジョワ的でエレガントな雰囲気を帯び、19世紀末のヨーロッパの都市におけるポルティコのある商業地区のデザインのモデルとなりました。

## 10.ストラダ・マッジョーレ

ストラダ・マッジョーレはローマ時代から街の組織化の重要な軸でしたが、通りの両側にある柱廊玄関の都市の壮麗さの「鏡」となったのは中世になってからです。文書資料では、この通りは、荘厳な邸宅が集中しているため卓越した「高貴な」通りとして記されており、また、教皇通りとしての役割を果たした「勝利の」通りとしても記されています。今日でも、通り全体に沿って社交的な雰囲気の高さを感じることができます。長い歴史の中で、街はこの道路軸に沿って成長してきました。そのため、ストラダ・マッジョーレには、中世から現代に至るまで、ポルティコの優れた建築的独創性に関する数多くのエピソードが示されており、そのユニークな歴史を証明しています。その中には、おそらくヨーロッパの都市に現存する最古の中世のポルティコであるイゾラーニ邸のポルティコがあります；サンタ・マリア・デイ・セルヴィ教会のポルティコとポルティコ群；そして、いわゆるアレマンニのポルティコは、市壁の外側にある屋根付きの通りの最初の例です。

## 11.「トレノ・デッラ・バルカ」

この非常に長いポルティコのある現代的な集合住宅の建物は、建築品質が高く、地元の歴史に深く根ざした革新的な建築物です。厳格な機能主義の原則に従って建設された「トレノ・デッラ・バルカ」は、伝統的なボローニャのポルティコを現代的に再構成したものです。それは都市の周縁部に新たな命を吹き込み、何世紀にもわたる伝統に根ざしたその絶え間ない表現力とアイデンティティの強さを強調します。

この地域の住宅建築物やその他の住宅建築物の絶え間ないな維持管理は、多くの場合住民自身によって行われ、都市のこの周縁部を劣化から守り、優れた建築だけでなく社会的インクルーシブのモデルとなっています。

## 12.マンボ

かつてはパン工場のかまどで今日ではボローニャ現代美術館マンボ(市内で最もダイナミックな文化施設の1つ)の所在地である20世紀のポルティコは、歴史的に前近代的な産業活動に捧げられた都市の一部の中に、20世紀初頭の大規模な公共都市再開発工事にお

いて記念碑的なポルティコが存続したことを記録しています。現在のこの市街地の再利用は、環境重視の復興を目的として行われています。

この建造物群には、最近文化センター（マニファットウーラ・デッレ・アルティ）として再構成され再提案されたかつてのポルト・ナヴィレ全域が含まれます。そこではポルティコは入り口の門として機能し、何よりも文化的社会の中心地としての役割で知られています。この建造物群の内部には、重要な文献資料があります。それは、映画フィルムの保存や修復において国際レベルで最も重要な機関の 1 つであるチネテカ・ボローニャのアーカイブです。